

第35回 臨時大会開催!

その②

東労組自身が労働協約70条「平和条項」を破ったことが「労使共同宣言の失効」を引き起こし、脱退に拍車をかけた原因であると総括! 労使関係をゼロベースでスタートし、嘘をつかず正直に、「組合員の声」に基づき堂々と会社施策に向き合う新たな東労組を創ることを確認!

臨時大会では、新たな方針を打ち出す前提として「18春闘の総括」を行いました。組織混乱の原因を究明し、反省・謝罪に基づき再出発することを確認しました。

JR東労組中央本部としての「18春闘総括」(要旨)

◆涙を流しながら脱退届を預ける方や、「東労組が嫌いになったわけではない」と言葉を残して脱退した方、そのような場面に立ち会い、踏み留めようと必死になって話をしてきたリーダーの皆さん、支部・地本に届く大量の脱退届の前に不本意ながら取扱いを行っている書記の皆さんなど、本部として反省し、全ての皆さんにお詫び申し上げます。この現実を生んだ根拠を掘り下げ、心を一つに難局を乗り越え、新たなJR東労組を創る決意である。

◆組織の半数の皆さんが2ヶ月でJR東労組に区切りをつけ、脱退してしまった。18春闘以外を含め、本部の運動方針や組み立てが、職場で素直に見ている組合員にはギャップとして映り、本部不信や「あきらめ」につながり、脱退に拍車がかかった。最も重要なのは、雇用と利益を守ることである。生み出した組織現実、職場ではなく中央本部の責任である。組合員の切実な願いは「早くこの状況から抜け出してほしい」ことである。

◆82.3%の批准でスト権を確立したが、スト権行使には異論を持つ組合員も多いことを受け止めなければならない。

◆2月16日に「闘争1号」の申し入れを行い、本部は直ちに交渉日程の調整に入ったが会社との調整は難航し、ようやく2月23日の団体交渉が決まった。しかし2月19日に「戦術行使の予告」を会社に行った。当時は誤った認識はなかったが、本部は十分議論を行わなかった。弁護士からの「労働協約70条を踏み越えた以上、会社が労使共同宣言を破棄するのは当たり前」という見解に真摯に向き合い、労働協約70条を破ってしまったことの反省をしなければならない。

◆団体交渉の妥結結果への不満・疑問の声に対して、交渉のやり方は本当にこれで良かったのかと中央本部が総括しなければならず、人のせいにはいけない。

◆不当労働行為の救済申し立てについて、取り下げを指令する。労使間の紛争状態を解消し、ゼロベースからのスタートをしていく。紛争状態が続く限り、職場の仲間の利益はあり得なくなる。労使関係を甘く見てはいけない。

◆制裁申請が出されたが、この約1ヶ月半、何度も同じ議論を繰り返したが結論を出せなかった。よって、臨時大会で判断してもらわざるを得なくなった。「組合員が何を求めているのか」を前提に、自力で判断し自力で結果を出せる組織を取り戻していく。

◆施策に向き合う時、組合員が本当に求めているものは何かを議論していかなければならない。会社は組合に「時間軸を持つように」と言うが、会社も持つべき。私たちは施策と堂々と向き合う。その場合、組合員との議論を深め、組合員が考えていることを掴むことに時間をかける必要がある。

◆効率化や36協定締結にしっかり向き合い、安全・安心な職場を創り上げる。会社の安定的な成長を実現させつつ、組合員の立場に立った要求を練り上げ、団体交渉を通じて要求の実現を目指すため、職場からの闘いを強化し、組合員・家族の幸せを実現していくという基本に立ち返らなければならない。そのことは丸のみ、労働強化、容認などを意味する訳ではない。労使共同宣言下で「必要な効率化は認める」とした上で「安全・健康・ゆとり・働きがい」を担保させるために団体交渉を積み上げていく。初心にかえって、労使共同宣言の失効状態という新たな再出発を、今日を区切りにして、全組合員と共に船出していく。その場合、大切なのは「嘘をつかない」ということ。真正面から組合員の皆さんに訴え、意見を聞き、会社とも真正面から議論を深めていく。

反省し、正すべきは正した上で、JR東労組の再出発を図ります!